

「警察官による柔道・剣道教室」	25%
「交番を地域住民の集まる場とする」	22%
「全国交通安全運動」	13%
「刑事もののドラマや映画」	11%
「ポスター・標語・キャラクターグッズなどによる広報」	9%
「警察官による演劇や芸能の地域での無料講演」	7%
「芸能人やスポーツ選手らによる一日署長」	5%

6. 警察の仕事への評価と今後の期待

現在の警察の仕事が市民にどのように評価されているのか、VIPの警備、テロ集団への警戒、交通取り締まり、地域警らといった具体的な仕事について訊ねた。

(1) 警備について

VIP警備（図表6-1-1）

「国賓などのVIPのために行っている警察の警備」、「首相等の政府高官のために行っている警察の警備」のそれぞれについて、警備の程度の適切さについて訊ね、「過剰だと思う」「少々過剰だと思う」「適当だと思う」「少々手薄かなと思う」「手薄だと思う」の5段階で回答を求めた。

VIPについては、現在の警備を「適当」とする者が約3分の1、「過剰」が2割弱、「少々過剰」が4割強である。「少々手薄」と「手薄」は合計しても7%で、1割を下回

っている。顕著な性差はなく、男女ともに、40代以下の年代層では「少々手薄」「手薄」という感想をもつ人がいるものの、50代以上にはほとんどいない。「過剰」と感じている人の率が最も高いのは、男性では60代（39%）、女性では20代（25%）である。

VIP警備については、「21世紀には犯罪が大幅に増える」と予測している人であっても、「過剰だと思う」（約2割）、「少々過剰」（約4割）と警備過剰とみている点があきらかである。

図表6—1—1 VIPの警備

	（%）				
	過剰 だと思 う	少 し過 剰か な う	適 当だ と思 う	少 し手 薄か な う	手 薄だ と思 う
全体	18	42	34	5	2
男性	17	40	35	6	3
女性	18	45	33	3	1
10代男	7	29	50	7	7
10代女	0	35	48	13	4
20代男	19	32	38	8	4
20代女	25	32	34	9	0
30代男	19	35	37	7	3
30代女	17	46	35	1	1
40代男	12	49	30	8	1
40代女	15	49	37	0	0
50代男	14	54	30	0	2
50代女	20	50	29	1	0
60代男	39	30	30	0	0
60代女	22	61	17	0	0

図表6—1—2 政府高官の警備

	（%）				
	過剰 だと思 う	少 し過 剰か な う	適 当だ と思 う	少 し手 薄か な う	手 薄だ と思 う
全体	23	39	34	4	0
男性	23	35	35	6	1
女性	23	44	32	2	0
10代男	14	36	39	7	4
10代女	9	26	57	9	0
20代男	34	19	35	9	2
20代女	27	38	32	3	0
30代男	23	34	38	5	0
30代女	19	44	36	1	0
40代男	15	45	34	7	0
40代女	24	43	34	0	0
50代男	18	51	30	2	0
50代女	23	49	27	1	0
60代男	30	26	44	0	0
60代女	35	65	0	0	0

高官の警備（図表6—1—2）

政府高官の警備についても、全体的にVIPの場合とほぼ似ているが、「過剰」と思う人が若干多い（2割強）。また「過剰」と思う人は男女同率だが、「少々過剰」については女性の方が男性より10ポイント近く多くなっている。「過剰」と感じている人が最も

多いのは、男性では20代（34%）、女性では60代（35%）である。

警備程度の適切さについての評価と、警察への協力のしやすさの感じ方には一定の対応関係がみられる。つまり、警察に協力しやすいと思う人は、VIPおよび政府高官の警備程度を適当と評価している率が高いのに対し、協力しにくく感じている人は、警備程度について不適切とみる傾向にある。とくに「非常に協力しにくい」人の場合、VIP警備では4割近くが、また政府高官警備については半数近い46%が「過剰だと思う」と回答している点が目立っている。

政府高官の警備については、「21世紀には犯罪が大幅に増える」と予測している人のうちの4分の1以上が「過剰だと思う」とし、「少々過剰」が約4割となっており、犯罪の増加という不安を抱える人も、現在の高官の警備については過剰気味と捉えていることがわかる。

テロ集団の警戒（図表6—1—3）

「過激派等のテロ集団に対する警察の警戒活動の程度について、どう思われますか」と質問し、「厳しすぎると思う」「厳しいと思う」「適当だと思う」「甘いと思う」「甘すぎると思う」の中から選択してもらった。

全体では、「適当」とみる者が半数近い（49%）。「甘い」（31%）、「甘すぎる」（10%）が合わせて4割を越えるのに対し、「厳しい」（10%）、「厳しすぎる」（1%）は少ない。性差がみられ、男性の方がより厳しさを求める傾向にある（「甘い」「甘すぎる」の合計が、男性では47%、女性では34%）。「甘すぎる」という批判は30代の男性に比較的多くみられる（23%）。

テロ集団の警戒については、「21世紀には犯罪が大幅に増える」と予測している人のうちの3分の1が現状を「甘いと思う」とし、「甘すぎる」とみている人も1割を越えている。

図表 6-1-3 対テロ集団の警戒活動

		(%)				
		厳しすぎる と思う	厳しい と思う	適当だ と思う	甘い と思う	甘すぎる と思う
全体		1	10	49	31	10
男性		2	7	44	34	13
女性		1	13	53	28	6
10代	男	4	11	36	43	7
	女	0	0	61	30	9
20代	男	1	5	47	39	8
	女	1	9	47	38	6
30代	男	1	10	45	22	23
	女	3	9	56	24	8
40代	男	0	1	54	30	15
	女	0	19	53	22	6
50代	男	5	8	41	37	10
	女	0	16	57	23	4
60代	男	0	13	22	52	13
	女	0	22	39	39	0

図表 6-1-4 交通取り締まり

		(%)				
		厳しすぎる と思う	厳しい と思う	適当だ と思う	甘い と思う	甘すぎる と思う
全体		9	26	39	20	5
男性		12	27	36	20	5
女性		7	25	43	20	5
10代	男	14	25	54	7	0
	女	4	4	52	30	9
20代	男	15	25	40	15	5
	女	13	24	37	21	6
30代	男	15	27	27	22	10
	女	9	36	39	14	3
40代	男	7	32	38	18	5
	女	3	22	50	19	6
50代	男	11	27	32	30	0
	女	4	20	46	24	6
60代	男	4	26	39	26	4
	女	4	35	35	22	4

交通取り締まり (図表 6-1-4)

警察の交通取り締まりの程度については、「適当」が約4割と最も多いものの、「厳しすぎる」「厳しい」も合わせると3割を越える。一方、その反対の「甘すぎる」「甘い」と感じている者も全体の4分の1にのぼっており、交通取り締まりに対しては、評価のばらつきが大きい様子がわかる。顕著ではないが性差がみられ、男性の方が厳しく受け止めている傾向がある（「厳しすぎる」「厳しい」の合計が男性は39%、女性は32%）。

警察官との会話経験の頻度別にみると、「厳しい」という評価をしている人は、「会話経験がある」の場合、「全くない」人の倍である。実際に交通取り締まりを経験したことのある人が、その経験に基づいて「厳しい」と評価しているのかもしれない。

警察への協力のしやすさと、交通取り締まりの評価についても一定の対応関係がみられ、協力的な態度をもっている人は、取り締まりの程度を「適当」と評価する率が高くなっている。

地域のパトロール (図表6-1-5)

地域住民にとって、もっとも身近な警察の活動と思われる地域のパトロール活動について訊ね、「過剰だと思う」「少々過剰だと思う」「適当だと思う」「少々手薄かなと思う」「手薄だと思う」の5段階で回答してもらった。

回答者の半数が「少々手薄」と評価しており、「手薄」と合わせると、7割以上がパトロール不足とみている。「過剰」「少々過剰」は合計してもわずかであり(4%)、「適当」と考えている人は全体の4分の1を下回っている。顕著な性差はみられないものの、女性の方が「手薄」感をもつ人がやや多いようだ。

「手薄だと思う」と最も不満あるいは不安を示す態度を明確に図表しているのは、男性では30代、40代に多く(3割以上)、女性では20代と60代である。

警察への協力のしやすさと、パトロールの手薄感とは対応関係がみられ、「やや協力しにくい」人の4分の1、「非常に協力しにくい」人では半数近くがパトロールが「手薄」と回答している。

図表6-1-5 地域のパトロール

		(%)				
		過剰 だと思 う	少 し過 剰か な と思 う	適 当だ と思 う	少 し手 薄か な と思 う	手 薄だ と思 う
全体		1	3	23	50	23
男性		1	3	26	47	24
女性		1	3	21	54	22
10代	男	0	11	25	43	21
	女	4	9	17	44	26
20代	男	1	5	33	45	17
	女	1	3	25	39	31
30代	男	0	1	19	46	34
	女	0	3	19	55	23
40代	男	0	0	24	45	31
	女	0	3	21	63	13
50代	男	2	3	24	54	18
	女	0	1	24	61	13
60代	男	0	0	30	57	13
	女	0	4	4	52	39

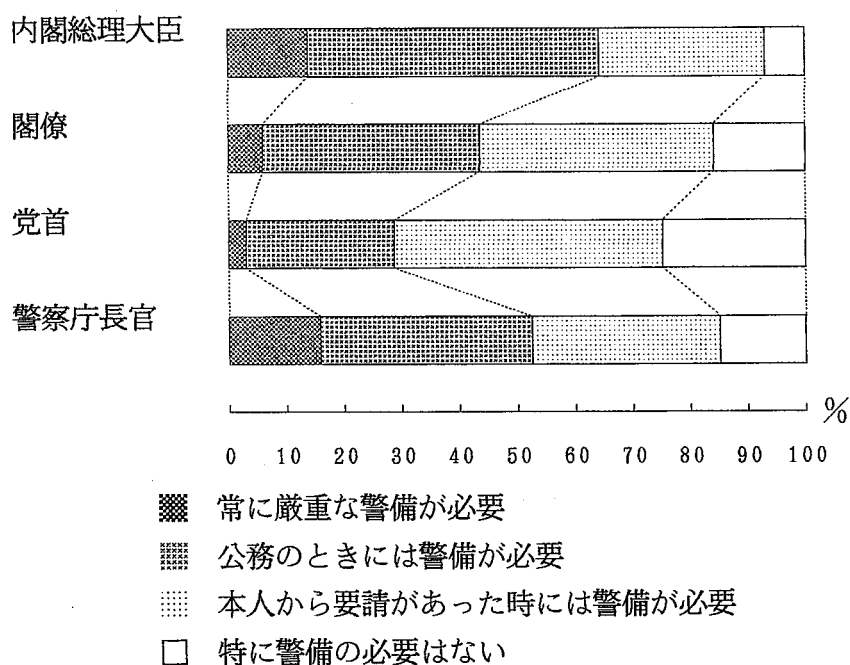
高官の警備の必要度

次にさらに踏み込んでより具体的に警備の必要度について訊ねた結果を示しておく。

「内閣総理大臣」「閣僚」「首相以外の政党の党首・代図表」「警察庁長官」のそれぞれについて、警備はどの程度必要だと考えるか、「常に嚴重な警備が必要」「公務の時には警備が必要」「本人から要請があった場合には警備が必要」「特に警備の必要はない」のうちから1つ選択してもらった結果が図表6-2である。

必ずしも常に警備が必要とはみなされず、「党首」の場合には、「特に警備が必要でない」と考える人がほぼ4分の1となっている。「警察庁長官」については、回答がばらついており、狙撃事件についての記憶や関心の有無との関連が推測される。

図表6-2 必要警備場面



7. 社会安全についての意識

(1) 治安についての意識

「日本は治安のよい国だ」「日本の警察は治安維持に十分な役割を果たしている」「自分の身の安全は自分で守るべきだ」「犯罪に巻き込まれる側にも落ち度がある」の4つの意見について、賛否を訊ねた結果は、図表7-1の通りである。

図表7-1 治安についての意識

	治安のよい国				治安維持に充分				自分の身は自分で				被害者にも落ち度			
	賛成	やや賛成	やや反対	反対	賛成	やや賛成	やや反対	反対	賛成	やや賛成	やや反対	反対	賛成	やや賛成	やや反対	反対
全体	30	56	12	2	24	58	16	2	26	53	18	3	5	43	37	15
男性	33	56	9	2	27	57	14	2	26	52	19	3	6	44	35	15
女性	28	57	14	2	21	59	17	3	26	54	17	3	5	41	40	14
10代	25	54	14	7	11	71	14	4	21	57	14	7	11	36	32	21
男女	17	48	30	4	17	52	26	4	22	48	26	4	0	44	44	13
20代	39	49	11	1	22	59	17	2	29	46	22	2	5	47	39	9
男女	20	56	21	3	13	56	25	6	35	45	18	1	9	44	35	13
30代	27	54	18	1	27	51	20	1	31	49	19	1	4	37	39	20
男女	22	67	10	1	10	71	18	1	23	60	14	3	4	44	42	10
40代	31	62	5	1	32	53	12	3	16	51	30	3	5	43	35	16
男女	44	43	10	3	35	52	12	2	19	65	13	3	2	46	41	12
50代	33	62	3	2	25	67	6	2	30	57	6	6	5	51	30	14
男女	33	60	7	0	27	59	13	1	26	49	23	3	9	31	34	26
60代	48	52	0	0	48	44	9	0	17	70	13	0	9	57	26	9
男女	17	65	17	0	30	52	13	4	30	52	9	9	9	30	52	9

まず、現在の日本社会の状態については、9割近くが「治安がよい」（「賛成」30%、「やや賛成」56%の合計）と感じている。顕著な差ではないが、男性の方が肯定的な傾向がみられる。「治安がよい」に賛意を示さない人が最も多いのは、女性の10・20代である。

「日本の警察は治安維持に十分な役割を果たしている」という、警察の治安維持を評価する意見についても、全体では肯定的な人が多い（「賛成」24%、「やや賛成」58%の合計82%）。これについても男性の方が若干肯定的であり、やはり女性の10・20代には否定的な態度の人が3分の1程度いる。

一方、「自分の身の安全は自分で守るべきだ」については同意する人が多い（「賛成」26%、「やや賛成」53%の合計、79%）ものの、否定的な人も2割強いる。これには全体では性差は殆どない（ただし、男性の40代で3割強が否定的回答をしているのが目立つ）。

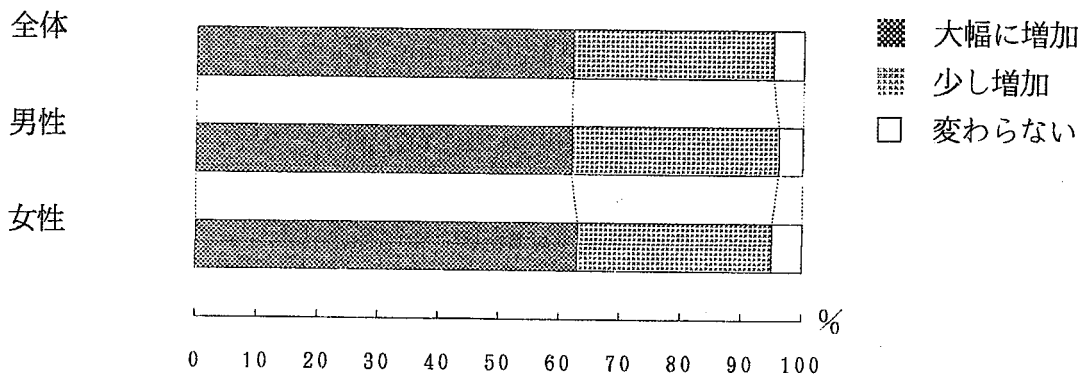
「犯罪に巻き込まれる側にも落ち度がある」という意見の妥当性については、「賛成」は5%と少なく、「やや賛成」が4割強、「やや反対」4割弱、反対が1.5割と回答は賛成と反対とでほぼ半分ずつに割れた。

犯罪被害者に落ち度があるとは限らず、むしろ全く落ち度がない場合も少なからずある。事件の被害者を責める態度に直結しやすいこうした意見は、「レイプ神話」という形で性犯罪被害者の人権侵害などの問題を引き起こしかねないので注意が必要である。30代男性、50代女性では比較的反対意見が多かったが、50代・60代男性の賛成回答が多いのはやや気になる点である。

（2）21世紀社会の犯罪

「21世紀の日本では、現在より犯罪が増加すると思われますか」という問いで、犯罪の増減を予測してもらったところ、「大幅に増える」が6割強、「少し増える」が3割強、「今と変わらない」が5%のほか「少し減少する」は1%にもならず、「大幅に減少する」はゼロと、犯罪の増加を予測する人が大半であった。性差はほとんどない（図表7-2）。

図表 7-2 21世紀の犯罪増減予想



では、どのような犯罪の増加を予測しているのか、具体的な犯罪を挙げ、増加すると思うものを選んでもらった（複数回答）図表 7-3 参照。

増加すると予測した人が半数を越えた犯罪を多い順にあげると、「コンピュータを用いた犯罪」「少年による犯罪」「殺人」「外国人による犯罪」「少年の非行」「麻薬関連の犯罪」「老人が被害者となる犯罪」「強盗」「盗聴」「毒物による犯罪」「金融犯罪」「窃盗・泥棒」「強姦・強制わいせつ」「家庭内の児童虐待」となる。

情報化社会を反映してどの世代でもコンピュータ犯罪の増加を予測する人が多く、少年犯罪も約 9 割が増加を予想している。高齢化も意識され、高齢者が被害者となる犯罪が増えることを予測する回答者が多いが（約 7 割）、なかでも年代があがるにつれて「老人が被害者となる犯罪」の増加を予測する人の率が高まる傾向がみられ、50代女性では 9 割近くになっている。

性別による予想の違いもあり、「家庭内の児童虐待」の場合は女性は約 6 割、男性は約 5 割と 10 ポイントの差がみられた。性・世代別にみると、女性の 10・20 代では 7 割と高率で予測されている。また、夫婦間暴力については、全体では約 3 割が増加を予測するにとどまるものの、20代・50代女性と 30代男性では約 4 割である。同じ世代の男女での差が大きく、20代男性は 3 割である。また 50代男性では 2 割強と同世代の女性とは 20 ポイント近い差が開いており、この問題についての意識差が顕著にみられた。

図表7-3 増加が予測される犯罪

	[複数回答 (%)]												
	殺人	強盗	窃盗・泥棒	引ったくり	強制わいせつ	痴漢・のぞき	盗聴	放火	誘拐	テロ	暴力団の抗争	麻薬関連の犯罪	暴走行為
全体	78	68	57	40	54	36	62	30	33	36	14	71	28
男性	74	70	62	39	52	36	58	31	34	38	19	73	30
女性	81	66	53	41	56	36	65	29	32	33	9	69	25
10代	82	61	57	39	57	39	54	29	36	29	18	75	39
男女	83	52	35	22	65	61	74	35	30	35	17	91	26
20代	71	59	53	29	51	37	65	26	28	42	14	71	26
男女	83	62	51	39	56	39	72	30	31	37	10	63	27
30代	81	70	69	54	54	41	65	43	43	45	20	77	27
男女	80	73	50	46	49	31	60	28	35	28	8	69	18
40代	70	80	65	35	54	26	49	32	31	37	16	70	28
男女	82	69	60	46	56	40	72	34	34	34	7	71	27
50代	73	73	64	35	46	37	56	18	27	32	21	70	33
男女	77	69	53	46	57	29	61	29	29	36	9	69	27
60代	70	78	61	48	52	44	57	44	52	39	35	78	44
男女	91	57	61	26	70	35	44	17	30	26	9	65	35

	[複数回答 (%)]												
	少年による犯罪	少年の非行	家庭内の児童虐待	夫婦間暴力	老人が被害者となる犯罪	毒物による犯罪	外国人による犯罪	コンピュータによる犯罪	金融犯罪	ニセ札作り	結婚サギ	遵法精神の弱まり	この中にはない
全体	89	71	54	31	69	59	76	89	58	22	10	32	0
男性	88	71	48	29	69	57	80	88	57	21	11	35	0
女性	90	72	60	33	68	62	72	90	60	23	9	30	0
10代	93	79	46	29	68	64	64	86	50	29	14	21	0
男女	91	83	70	26	52	87	65	87	65	48	13	13	0
20代	85	67	49	28	61	51	74	89	57	18	9	32	0
男女	92	63	68	38	59	69	69	92	62	23	6	25	0
30代	96	85	58	39	72	72	77	91	66	20	14	35	0
男女	86	74	62	30	55	71	67	86	50	22	8	26	0
40代	93	66	46	28	70	65	87	84	53	23	12	35	0
男女	93	75	54	31	77	57	77	96	60	21	13	35	0
50代	78	64	41	22	73	40	83	86	54	16	6	37	2
男女	89	73	56	40	87	47	77	90	66	20	10	37	0
60代	83	70	39	26	74	48	96	96	61	30	17	52	0
男女	87	61	44	17	74	39	78	87	61	26	9	35	0